

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	太陽福祉会の理念、職員心得を念頭に置き実践している。会議や研修会前には理念の唱和を行い、全職員の意思統一を図っている。	常々、運営推進会議で聞き、出来ている。地元住民との顔の見える関係の構築を心掛けておられると思います。行事参加依頼に積極的に対応されている。	理念、心得を常に実践の中で具体化について検討していく事が必要である。現在の実践の継続を期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルスの流行以降、地域の方々との交流は控えている。ただ、運営推進会議は開催出来ており委員の方々との意見交換を行っている。	おおむね良好で実践出来ている。地域との交流を心掛けておられると思います。	地域の行事との連携拡大を図っていく。新型コロナウイルスの完全終息はまだ遠い先ですが、5類となり地域行事への参加も期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症あんしんサポート相談窓口実施事業所として施設入口に看板を掲げいつでも相談にお越しいただけるようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度、運営推進会議を開催し、ご家族、地域の方、市職員に報告、また、皆様から忌憚ないご意見をいただきサービスの質の向上に努めている。	良い意見交換の場になっていると感じている。良好である。実践状況に説明の通りの状況だと評価している。	要望、意見を受け止めて、出来る事一つひとつを実践、検討していく事がサービスの質の向上につながる。継続を期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議開催時に、市職員から情報や指示など受けている。	運営推進会議の中で積極的に情報提供いただいていると感じている。良好である。実践状況の通りだと評価している。	市、地域、家族会との情報の共有化を促進し、マンネリ化の打破や新しいサービスの在り方を追及していくべき。継続を期待します。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	太陽福祉会の虐待防止・身体拘束適正化委員会に属しており、会議に職員が出席している。また事業所会議にて委員会の報告や、虐待防止や身体拘束廃止に向けての取り組み等を職員で話し合い意識向上に努めている。	運営推進会議での報告から定期的に委員会が開催されている事が確認でき、取り組んでいると感じている。具体例を通して職員の共有した意識や研修に役立てている。	さらなる職員の共通理解と研修の向上、継続を期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	太陽福祉会の虐待防止・身体拘束適正化委員会、リスクマネジメント委員会に属し、事故報告の検討やご利用者の心身、身体への注意喚起を怠らないように、事業所会議にて毎月話し合っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今まで該当される方がいなく、勉強不足である事は否めない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約変更があった場合は、十分な時間と話し合いの場を持っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の場で家族代表の方から忌憚のないご意見をいただけており、職員会議にて周知している。また、太陽福祉会の苦情解決委員会を通して、苦情、要望も受け付けている。	運営推進会議だけでなく、意見箱を設置し家族からの意見聴取に努められていると感じている。 家族代表としての意見、要望は受け止めていただいている。	家族会が持っていないので、家族の願いを受けとる場がなく、早急な家族会が必要だと感じている。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	事業所の会議で職員の意見を吸い上げ、ご利用者様への処遇や職員処遇に必要な事は業務に反映させている。	運営推進会議で左記内容についてお聞きし、実践されていると感じている。	今後も継続を期待します。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	京都府福祉人材育成認証制度に則り、定期的な面談を実施しており職員処遇の向上に努めている。また、ワーク・ライフ・バランスの認定企業として職員の生活も大事にしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	太陽福祉会で行われるサービス向上研修会への参加、事業所会議にて勉強会を定期的に開催している。また、定期的な面談を行い職員一人ひとりの現状把握に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	事業者協議会が主催する高齢者部会の専門部会にて市内のグループホームの管理者と意見交換を行う機会があり情報発信や情報収集に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前にご家族と施設管理者、ケアマネとの面談を充分に行っている。また、日々の生活での特変事項等をケース記録に残し、定期的なカンファレンスを行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前にご家族と施設管理者、ケアマネとの面談を充分に行うことにご家族の信頼を得るように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	最終的にどのように生活を送っていく希望があるのかをお聞きする。必要であれば特養入所申し込みのお手伝いをさせていただく。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自立支援を念頭に置き、出来る範囲の事は可能な限り、ご利用者本人にお願いしている。職員も任せきりにせず適度な距離感を意識している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族には、日々のご様子を写真入りのお便りをお送りして報告している。また、コロナ禍という事もあり細目に電話連絡、相談をさせていただいている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	まだまだ予断は許さない状況ではあるが、可能な限り里帰りドライブ等を企画し、少数での外出支援を行っている。	コロナ禍で継続した取り組みは制限を伴うが、可能な限り努力しておられる様子は理解できる。 入所されている方のお家の近くまでドライブされ「寄っていきたいですか？」と本人に確認されると「いいや、いきがいに帰る」と返答されたお話が印象に残っています。	外出支援は画一的な内容の支援にとどまらず、外の空気、景色等違った介護で刺激もあり大切なものだと考える。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士の関わり合いを見つけ、話し相手が見つかるように職員が橋渡しをしている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	病気加療で退所された方への面会はコロナ禍という事もありますが、可能な限りご家族の相談には乗らせていただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	居室環境はご本人の要望に沿って整えているが、聞き取れない方にはご家族に相談をしている。レクや外出等は無理強いをせず、ご本人の自己決定を尊重している。	自己決定を尊重する事は人権上最も大切な事で理解ができ必要であり、良い実践である。左記報告の通り実践されていると思います。	自己決定を中心にするか、何もしないままの状況が続かないようにしなければならない。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族に過去の生活状況、入所前に担当していたケアマネジャーやサービス利用されていた事業所等から情報を得ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日課を中心に、無理のないように自由に参加していただいている。また、特変等があればその旨、記録に残しご家族への報告を行い、必要に応じて受診につなげている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員全員が個々の介護状況と課題を報告し、居室担当が取りまとめ介護支援専門員とカンファレンスを行い介護計画に反映させている。	入居者の残存能力を活かしたケアに取り組んでおられると感じている。一人ひとりの個性や人権を大切に、きめ細やかな介護計画が作成され実践出来ている。職員のみなさんが入所者お一人お一人の課題等を把握しながら介護されていると思う。	全員の共通理解の深化がより行き届いた介護につながる。引き続きの取り組みを期待する。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々、ケース記録から業務日誌に転記している。また朝夕の申し送りにて情報共有を行っている。職員間の連絡帳を用い、同様の事を行っている。見直しがある場合は介護支援専門員に相談を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要に応じて受診の代行を行っている。また、買い物の代行等もやっている。柔軟に外出支援もやっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の活用に関しては、散髪のみである。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診時には主治医への受診票を作成し、身体状況の報告や担当の看護師からのコメントを提出している。主治医からの指示(返答)もいただいて記録に残している。	各入所者に対して、丁寧な受診支援態勢をとっておられる思う。	コロナ対応もあり受診支援も大変とは思いますが引き続きの支援を期待する。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	身体状況の変化など、随時担当の看護師へ報告を行い指示を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には入院情報を作成し、病棟への情報提供を行っている。また、入院中の様子や治療の進捗等は地域医療連携室と連絡を密にとっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りケアに関しては、主治医、医務、ご家族とカンファレンスを行い施設で行えるケア内容をご家族に説明している。	このスタンスは重要であり、大切にされるべきだ。本人本位の終末期支援、看取りケアをされていると思う。	引き続きの終末期支援の取り組みを期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急救命講習は全職員が受講済であるが受講から時間が経っている職員も居り、全職員が実践力を身に付けているとは言い切れない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、夜間の火災発生を想定した消防避難訓練を行っている。	運営推進会議の報告から訓練の様子が確認できる。 定期的に災害対応訓練をされている。	ご利用者の症状や能力に合った避難が難しいと思う。職員の体制や人数、非常事態の連携体制をより具体化する。 近年多発する自然災害や地震災害に、これまでとは違った緊張感で計画や対処する体制の見直し、訓練内容の見直しが必要になってくる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	法人理念にもある「基本的人権の尊重」を念頭に置き日々の業務にあたっている。言葉かけに関しては介護中のスピーチロックを無くすよう職員間で声掛けを行っている。	理念、方向性は実践できている。 入所者本位の対応をされていると思う。	言葉かけの中でスピーチロックを無くすよう努められているようですが、大変だと思いますが、実践の継続を期待します。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常会話の中から、本人の思いをくみ取り、職員が代弁したり自己決定に導き対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員が付き添う事が出来ず、ご利用者の要望に対処していただく事もある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自身で衣類を選ぶ事の出来る方には衣類を選んで着ていただいている。ご自身で選ぶ事の難しい方に関しては職員と一緒に選んで着ていただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	コロナ禍以降、これまでのように気軽に調理に参加していただく事は難しいが、可能な作業に関しては感染症対策を徹底した上で参加していただいている。	調理されている姿、食事されている姿、みなさんがとても楽しそうにされている姿が見られる。 四季毎の行事にまつわる料理をみなさんで作り、食事される様子を広報誌で拝見し、あたたかい気持ちになります。	出来得る限り体を動かし食事については共同作業が必要である。 まだまだコロナに警戒しなければなりません、少しでも楽しい食事ができるよう、支援の継続を期待する。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量や体重は記録に残しており定期受診の際に主治医へ報告を行い指示を仰いでいる。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアに付き添い、見守りや介助を行っている。夜間は、義歯管理を行い歯ブラシやコップ等の消毒など衛生面にも配慮している。また、毎月2回訪問歯科が入るので口腔内のトラブルは早期発見出来ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを全職員が把握する事で、定期的なトイレ誘導や声掛けを行っている。	各入所者ごとの対応をこまやかに実践されていると思う。	人間にとって排泄の自立はとても大事な事だと思う。変わらぬ継続を期待します。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事は野菜を多く摂取してもらっている。また水分量も一日トータルで計測し、不足しているようなら水分摂取を促している。排便管理を行い、主治医の指示通りに下剤など服用してもらっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	体調不良以外の理由でご利用者が入浴を拒否された場合、無理強いせずに入浴日の変更を行っている。また受診前日には入浴してもらおうようにしている。	報告通りの対応をされていると承知している。	ご本人達も清潔を保つためである事はもちろんのこと、自立した入浴がリフレッシュのひとつでもあると思うので変わらぬ継続を期待します。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	好きな時間帯に居室に戻っていただけるようにしている。リネン交換は週1回行うが、汚染があれば都度リネン交換を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬内容は全職員が把握するよう努めており、全職員が服薬内容を確認できるように冊子にまとめている。また、在庫確認であったり、症状によっては主治医、薬局薬剤師、担当看護師に相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみや食事の手伝いなど、その方が家事を行いやすいように援助している。集団でのレクリエーションにはある程度の制限はあるが、可能な限り行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	天気の良い日には園庭での散歩を行っている。外出先にも一定の制限はあるものの少人数でのドライブは行っている。	庭も広く、庭に出るだけでも入居者の方には良い気分転換になるのではないのでしょうか。コロナの制限もあり、まだ自由に企画実践されるには難しい面もあると思いますが、その中で工夫をされていると理解しています。	受け身の体制から本人の要望、要求が出せていける方向が望ましい。災害等で避難されている状況では、散歩や戸外への出掛け等どうされているのだろうと思う。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金を所持している方は居られず、病院受診の際にご家族と一緒に買い物に行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご利用者からご希望があれば、ご家族に電話を掛けていただいている。またご家族から電話があれば、取り次ぎ会話していただいている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	自由に座れるようにソファや椅子を多く配置している。季節の花や壁飾りを飾る事で季節を感じてもらっている。また、共用スペースには観葉植物を多く配置しており“ぬくもり”を感じていただけるようにしている。	植物には“癒し”を感じる事も出来る等、入居者が居心地よく過ごせる工夫がなされていると感じる。創意工夫が見られている。気持ちの良いさわやかな空間、スペースが出来ている。運営推進会議にて伺うと、居心地の良さ、空間の明るさ、ゆとり、季節感等をいつも感じ取っている。	地域が被災するような事があっても、その中でも生活感や季節感を絶やさない場所を少しでも確保されている施設であってほしい。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用スペースにはソファや椅子、テーブルを多く配置しており独りで過ごされる方(職員が寄り添っている)や複数人で過ごされる方が居られる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッド以外はご自宅からの持ち込みであり、可能な限りご自宅で過ごされていた雰囲気を作れるようにご家族と相談して配置を決めている。	左記の通りであると承知しています。	現在の実践を継続していただきたい。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	必要な「トイレ」「風呂場」などは分りやすいように表記してある。日付や時間が分りやすいように共有スペースには時計やカレンダーを設置している。		